

## 説教余滴 2020年3月22日、春を探して

暑さ寒さも彼岸まで、と言い慣わしてきました。  
これを実感した記憶があります。

例年3月15日は、頌栄女子学院の卒業式。「仰げば尊し わが師の恩」がうたわれます。午後は謝恩会です。その年は虎ノ門にあるホテル・オークラが会場でした。終わってから、同僚のT牧師と歩いて新橋駅に向かいました。アメリカ大使館を過ぎるころ、足元に暖かい風を感じました。あっ、春だ！ コートを着ていましたが、ボタンをはずし、春宵一刻値千金、そのあとの記憶はありません。その後毎年、高輪プリンスで開催されますが、春の到来を実感してきました。

サッポロは雪の中ですが、フキのトウなど、春を感じさせるものがありました。

田浦では何かあるでしょうか。まずスイセンでしょうか。冬の初めごろに見たので、あまり春を感じませんでした。それでも国道のガードの手前、右側の土手に春を探しに行ってみました。今年も咲いていました。次は三崎の河津桜、今年も行けませんでした。コロナウイルスに負けず元気に咲いたことでしょうか。東京の桜は、暖冬の影響で3月14日に開花宣言。半世紀さかのぼれば、四月の入学式のころ咲いていた記憶です。

田浦には、梅林があります。社会館の三階へ行くと、南の窓からよく見えます。会堂からは全く見えません。その代わりでしょうか。礼拝堂、オルガン脇の窓から西南、国道ガードの左側を見ると日蓮上人銅像の下にこぶしが咲いています。更に視線を上げると雪柳が見えます。どちらも真っ白、雪が消えると、その代わりのように咲き出すのでしょうか。どこかでレンギョウが見えるだろうと思います。菜の花も咲いているでしょう。淡い黄色は白と共に、いかにも春を感じさせてくれます。

港が丘公園の桜も、気の早い二本が咲いていました。あの団地には、花の手入れが上手な人が揃っておられるようです。これから、楽しい日々になるでしょう。